



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号

〔URL〕 <https://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2024年11月15日

報道関係者各位

「北海道e-水（イーミズ）プロジェクト」 第15回 北海道e-水フォーラム開催

北海道コカ・コーラボトリング株式会社（本社：札幌市清田区 代表取締役社長：酒寄正太）は、2024年11月22日（金）「第15回 北海道e-水フォーラム」を下記の通り開催いたしますので、ご案内申し上げます。

「北海道e-水プロジェクト」は、2009年11月、北海道と当社との間で締結した「環境保全に関するパートナーシップ協定」に基づき、北海道の豊かで美しい「水」を中心とした自然環境を守り次世代へと引き継いでいくことを目的とし、北海道、公益財団法人北海道環境財団、当社の三者協働で取り組むプロジェクトです。



北海道e-水プロジェクト

当社が販売する北海道の天然水「い・ろ・は・す天然水 540mlPET・950mlPET^{※1}」の売上の一部を（公財）北海道環境財団に寄付し、道内各地域で水辺の環境保全活動に取り組む団体および流域ネットワークの活動を支援するもので、2024年で15年目を迎えました。

当フォーラムでは本年度の寄付金 10,580,328 円（累計寄付額 174,791,538 円）贈呈式をはじめ、本年度採択された活動団体（5 団体）の年間活動報告、有識者による特別講演が行われます。

【第15回 北海道e-水フォーラム 概要】

日時	2024年11月22日（金） 18:00～20:30（開場 17:30）
会場	札幌国際ビル 8 階 国際ホール 札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 1 番地
申込み先	公益財団法人 北海道環境財団 電話：011-218-7811
定員	150 名（参加費無料）要事前申込み・先着順
内容	・寄付金贈呈式 ・2024 年度採択団体が活動内容を発表（e-水コース：5 団体） ・基調講演『小さな自然再生がひらく未来』 中川 大介（なかがわ だいすけ）氏 ライター・編集工房かぜまち舎 ※しずくコース（9 団体）、次世代コース（4 団体）にも発表いただきますが、行事全体時間の関係で録画し、後日北海道e-水プロジェクトホームページで公開いたします。
主催	北海道、公益財団法人北海道環境財団、北海道コカ・コーラボトリング株式会社

～北海道の環境を守る あなたの1本～



「北海道e-水プロジェクト」は、当社が販売する「い・ろ・は・す天然水 540mlPET・950mlPET^{※1}」の売上の一部を、（公財）北海道環境財団への寄付を通じて、北海道の水辺の環境保全を行っている活動団体を支援しており、2024年で15年目を迎え、寄付金額^{※2}は174,791,538 円、支援団体は延べ197 団体となり、e-水の活動やネットワークは北海道全域に拡大しています。

※1 2024年8月26日に寄付対象製品として「い・ろ・は・す天然水 540mlPET」に加え「い・ろ・は・す天然水 950mlPET」が追加になりました。

※2 北海道e-水プロジェクトの前身となる、北海道との「環境保護活動の推進に関する協定」に基づく寄付を含めた累計寄付額（2008年～2024年）

■ 別紙：2024 年度 北海道 e-水プロジェクト 支援団体（敬称略）

- ・ 対象となる団体：道内の水辺における環境保全事業を行う非営利の団体または流域ネットワーク
- ・ 対象となる事業：道内の水辺（川、海、湖沼など）において環境保全活動を行う非営利の団体（または流域ネットワーク）が行う事業。

<e-水コース（上限 200 万円）>

	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	大沼エデュケーションパークプロジェクト	大沼サステナブルキッズレンジャー養成塾	大沼国定公園及び隣接地区	【概要】若者と地域の子どもや大人が一緒になって環境課題に取り組み、サステナブルツアーコンテンツ開発を通じて環境課題の解決を試みる事業。 【特徴】サステナブルツアーコンテンツ開発手法としてこれまで実績を積んできた「子どもから高齢者まで楽しめるストーリー性と体力水準」を考慮しながらレスポンスフルトラベラーが地域貢献を通じて喜びを感じられる環境課題プログラムを造成しつつ、インタープリター人材を育成するのが特徴である。
2	大沼ラムサール協議会	アオコ・漂流ゴミの回収と環境改善とともに無くなる商品の開発	ラムサール条約登録地「大沼」	今年度の助成活動で作成したアオコ・漂流ゴミ回収ロボットボートの改良を行い、アオコの回収を行う。 回収したアオコは、今年度作成した着火剤への加工を行うだけでなく、染料として染料が行えないか試験し、「環境改善とともに無くなる商品」づくりを行う。 また、今年度不十分であったマイクロプラスチックの調査を愛媛大学大学院理工学研究科の片岡智哉准教授と美幌博物館学芸員の町田善康氏に指導いただきながら調査を実施する。
3	釧路自然保護協会	釧路湿原周辺における再生可能エネルギーと生物多様性の両立に向けた取り組み	釧路湿原周辺域	近年、急速に建設が進む太陽光発電施設の影響によって釧路湿原周辺では希少な動植物の生息・生育地の環境悪化・消失、景観の悪化などが懸念されている。これらの課題解決のため、生態系の専門家と共に再エネ推進にあたって回避すべきエリアを示した地図を作成し、自治体やNGOと連携した取り組みに活用する。シンポジウムや勉強会を開催し、貴重な生態系が損なわれることがないよう普及啓発をおこなう。
4	クッチャロ湖等保全対策協議会	ゴミまで採集するビーチコーミングで海浜植物を守れ	ベニヤ原生花園	道立自然公園のベニヤ原生花園は海に面した湿原という特徴がある。この湿原と海の両者を結び、グラデーションしているのが海浜植物である。 本活動ではバッファゾーンとして重要な海浜植物を守るため、浜頓別町民と一緒に清掃ビーチコーミングを実施する。採集した漂着物は人為的なゴミを除去し、ビーチクラフトの材料として活用する。漂着物を通して「陸と海」や「日本と外国」が水で繋がっていることを考えていきたい。
5	CISEネットワーク	「鰐脚類とヒトとの共生を考える」教育プログラム開発	石狩湾（小樽市、石狩市）、札幌市	北海道におけるトドやアザラシ（鰐脚類）の生態と漁業被害を理解し、ヒトとの共生を考える教材開発を進める。鰐脚類は保護対象の野生動物であるが、北海道では鰐脚類による漁業被害は、深刻な社会問題となっている。ただ、一般市民の関心は低い。本事業は大学生や高校生が、鰐脚類を中心とした海洋環境と漁業被害の実態の調査を行う。そして、野生動物とヒトとの共生への方向を考える子ども向けの教材を作成する。

<次世代コース（上限 30 万円）>

団体名	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	旭山自然調査隊	私たちの守るもの (旭山に残る希少種保護と 生物多様性の保全活動)	旭山記念公園と 周辺の都市環境林	希少種保護と生物多様性の保全のため、生き物の繁殖地を守る活動をおこなっています。本助成では旭山自然調査隊の特級隊員(中学生以上の隊員)が、水辺の命を守ることを目的に、活動場所である旭山記念公園と周辺の都市環境林にある池や沢の調査や保全活動を行います。水辺の生き物調査は4月から9月に行い、9月には「ふしぎ池」の池底の環境に注目し、生き物が繁殖地として使い続けることができるよう池底の改良を行います。
2	地域協働まちづくり会議 高栄小校区 きずな	高栄南公園ビオトープ整備	高栄南公園 ビオトープ	昨年まで藻の除去作業等を継続して行っていたが、目に見える成果が得られなかったため、北見市の企業「環境大善」が作った水質浄化剤が藻の生育・増殖に対する有効性の検証実験を行い、その結果により、水質浄化剤の本使用と水質浄化剤の改良への道を探る。それと同時に環境調査と昆虫や魚などの生物調査も行い、地域の子供たちや住民が水辺に親しみ、環境学習の実施ができる場にするための活動を実施する
3	公益財団法人 日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ	ウトナイ湖サンクチュアリ・ ネイチャーセンター サポーター活動	ウトナイ湖を含む 勇払原野 他	ウトナイ湖や弁天沼を含む勇払原野の湿地環境の保全を行なっている日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリの活動を、地域の皆さんにもサポートしていただいています。広大な自然を持続的に守るため、2023年度から世代を問わずサポーターメンバーを新たに募集し、未来の自然を守る若い世代も加わりました。現在、サポーター27名登録しており、レンジャーと一緒に湿地環境保全を目的とした調査、展示物の作成、観察路の環境管理等を行なっています。
4	北海道七飯高等学校 科学同好会	渡島大沼のアオコ・漂流ゴミ 回収ボートの改良・改善と 回収したアオコの利活用	七飯町大沼	昨年度は大沼ラムサール協議会、北大農学研究院と協働で、大沼のアオコ及び漂流ゴミを回収するロボットボートを作成した。数回の実験を通して、アオコ及び漂流ゴミを回収するとう所期の目的を十分に達成できることを確認した。また回収したアオコを利用して着火剤を試作した。2024年度は①アオコをより効率的に捕獲するためのプランクトンネットを自作、②回収したアオコを活用した商品を開発、これらを中心に改良を目指したい。

<しずくコース（上限 10 万円）>

団体名	団体名	事業名	活動地域	事業概要
1	あさひかわサケの会	石狩川の環境保全と 生態系の回復を通して、 石狩川上流部での 野生サケ資源の回復事業	旭川市内石狩川河 川・河川敷及び近隣 町の石狩川水系支流 河川・河川敷と繋がる 里山	河川環境保全を目的に、石狩川からプラゴミをなくす「NPS活動」を推進していきたい。4回の展示活動に「水生生物の生態展示」を取り入れ、展示見学者に河川環境保全の重要性を啓発したい。石狩川野生サケ回復活動の一環として、サケ産卵床及びポッチャレ調査を行い「野生サケ」の生態をData化したい。河川近隣の森林保全を目途に、「里森づくり」を推進し『湧水』のある河川環境を保全していきたい。
2	北見エコスクールSDGs協 議会	常呂海岸クリーン活動	とこと常呂ビーチ周辺 の海岸(北海道北見 市常呂町字常呂)	本活動は、プラスチックごみ問題を主とした環境問題と市民生活の関わり等について学び、参加者の環境保全意識を高めることを目的とし、オホーツク圏で数少ない海水浴場のひとつである「とこと常呂ビーチ」を有する北見市常呂自治区の海岸で清掃活動(ごみひろい)とマイクロプラスチックの観察会を実施いたします。

※「しずくコース」つづき

団体名	団体名	事業名	活動地域	事業概要
3	特定非営利活動法人 森多布湿原 ナショナルトラスト	アマモウォッチとベントス相調査	北海道厚岸郡浜中町 奥琵琶瀬地区(琵琶 瀬川河口)	北海道沿岸には広がる豊かなアマモ場は、カキやアサリといった水産物を支えているほか、近年は光合成により地球温暖化の進行を緩和する効果が大いことでも着目されている。浜中町では、2015年より、地元高校生との協働によるアマモ場のモニタリング活動「アマモウォッチ」を実施してきた。本年度は、これまで続けてきたアマモ場の調査に加え、アマモ場に生息する底生生物の調査を実施し、生物相を明らかにする。
4	渚滑川水系資源教育推進 実行委員会	滝上ウキウキリバー探検隊	渚滑川水系流域 (滝上町内)	渚滑川の水質の良さと、周辺の自然環境の質は国内・道内でも高いレベルにあり、後世に残すべき資源として保全と活用が求められている。こうした保全すべき資源の認知と次世代につなげるための取り組みとして、子どもたちに対する環境教育、流域資源の保全と知識の伝達を目的としたふるさと教育を実践できる人材育成を展開する。 また、渚滑川の魅力を地域内外に発信する取組みとして、各種団体や近隣市町村と連携を図り、広域的な視点をもって事業を幅広く展開することで地域の振興策に寄与する。
5	水車・アヤマ川自然公園を 育てる市民の会	水車・アヤマ川自然公園を 歩いてみよう	北海道伊達市水車・ アヤマ川自然公園	当公園は昭和58年(1983年)に市民活動により保全され残された自然公園です。 「市民活動の成果であること。安全に水辺に親しむことが出来ること。意外なほど多くの自然に触れられること。」 余り知られていないこれらのことを、活動により市民に広く知ってもらい、多くの人に利用してもらうことで、自然公園としての環境の維持保全に繋げて行きます。
6	チトセコ	美しい川でサケを迎える おかえりなさいサケプロジェクト	千歳市	千歳市には、毎年サケが遡上のため帰ってきます。水質がよいと言われる千歳川ですが、千歳川周辺には沢山のボイ捨てゴミも見られます。本事業では「サケを美しい川で迎える」をテーマに、千歳水族館と連携しながら千歳川流域のゴミ拾いを行います。 ゴミ拾いにはビンゴゲームの要素を入れて親子で楽しめるゴミ拾いしながら、環境について楽しく学び、自分たちの住む街の生き物と自然について考える守る機会を作ります。
7	十勝川のシシヤモを守る会	河川の水質及び生息物調査、 河川周辺のグリーン活動	豊頃町内・十勝川水 系背負川・下牛首別 川流域	・水質検査キットによる河川の水質汚れの調査を行い、水質の変化を確認する。 ・生息調査を行い外来種による被害状況や対策等の子どもへの周知活動。 ・流域及び周辺の清掃活動で、散策しやすい環境整備
8	特定非営利活動法人 中頓別町まちづくり協議会	頓別川クリーンアップ事業 2024	中頓別町の流域を流 れる頓別川、及び川 辺	2度目の申請である今回は、これまでのクリーンアップを進化させたカタチで行いたい。 川のゴミ拾いは従前どおり行うとして、どの地点にどのようなゴミが多いのかを調べたい。また、同時に川辺の植生(オオハングソウなどの特定外来種なども含めたもの)や野鳥の繁殖状況、護岸の状況や築堤を利用する人の様子などを可能な限りおさえない。 そうして確認できたデータを基にマップに落とし「川の地図」を作成する。可能な限り手作り感を出すために、手書きのイラストや利用者のコメントなども入れたり、できれば古者たちからの情報を集めて、冬に川を凍らせて(木材を運搬するための)馬を渡した地点なども入れ込みながら世代を超えて楽しめるものを作りたい。
9	羽幌町観光協会	焼尻島白浜海岸ゴミ清掃	北海道苫前郡羽幌町 焼尻島白浜海岸	白浜海岸は、町営の無料キャンプ場があり、雄大な景色も見られる景勝地です。しかし、焼尻島は、人口減少・高齢化により海岸清掃を島内住民だけで十分に実施することが出来ない状況にあります。今回の助成事業を活用して、北海道本土から協力者を募り、島内の協力者と一緒に海岸清掃を行います。今回の海岸清掃は、今後、持続的に行うための第一歩の活動であり、環境保全の機運を高めていく事を目的としています。



(今年度の採択団体活動風景)

私たち北海道コカ・コーラグループは、「北の大地とともに」をスローガンに、人々にさわやかさと潤いを届ける「どさんこ総合飲料メーカー」として、北海道の豊かな自然と地域ごとに魅力あふれる暮らしを未来につなげるため、「スマイルで暮らせる北海道」を道民の皆様とともに目指します。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・サステナビリティ推進部

担当：伊藤 TEL 011-888-2091

参考 1 活動の源である「い・ろ・は・す 天然水 540mlPET・950mlPET」について

- 北海道で販売される「い・ろ・は・す 天然水 540mlPET」は当社札幌工場の地下、深さ約 300 メートルの井戸からくみ上げた札幌市清田区南西方向にある白旗山方面から長い年月をかけて深い地下をゆっくり流れてきた天然水で、厳しい品質管理を経て皆様にお届けしております。
- リサイクルペット素材を 100%用いた“100%リサイクルペットボトル”を使うことで、「ペットボトルを資源として循環利用する“ボトル to ボトル”^{※1}」、「石油から新規に製造されるプラスチックの使用を削減^{※2}」、「ペットボトル 1 本あたりの CO₂ 排出量を 60%削減」の 3 つを実現し、環境に配慮された製品として販売しております。

※1 使用済み PET ボトルを回収・リサイクル処理したうえで、PET ボトルとして再生し、飲料の容器として用いること

※2 一般的な PET ボトルとの比較

■ 参考 2 「北海道 e-水（イーミズ）プロジェクト」とは

- 北海道には豊かな水資源とそれを取り巻く美しい自然があります。この北海道の恵まれた水とそれを含む自然環境を道民全体で保全し、未来に引き継いでいくため、道民、事業者、行政の協働のもとで地域における水辺の環境保全活動に取り組む事業が「北海道 e-水プロジェクト」です。
- エコロジーをイメージする「e」と「きれいな水」というイメージを重ね合わせ、「北海道 e-水（イーミズ）プロジェクト」と名付けました。

■ 参考 3 累計寄付金額

2008～2023 年 寄付額実績 **164,211,210 円**

2024 年 寄付額 10,580,328 円

寄付額累計 174,791,538 円 内) 北海道 e-水プロジェクト 150,413,343 円

■ 参考 4 「水循環 ACTIVE 企業」に認証されました（2024 年 10 月）

- 「水循環 ACTIVE 企業」について
「水循環 ACTIVE 企業」は、内閣官房水循環政策本部事務局が、2024 年に創設した「水循環企業登録・認証制度」で認証された企業のことです。本制度は、直近 3 年以内に、水循環に資する取組実績を有し、実績を証明できた企業が認証を受けることができます。
- 当社活動の評価ポイント
水を使った製品を製造する会社として、流域や森林、豊かな自然環境、生態系の保全などに取り組む団体をサポートする「北海道 e-水プロジェクト」の仕組みや、水源域における森林整備・保全の活動等が評価されました。認証項目として「水量水質カテゴリー」と「人材資金カテゴリー」の 2 部門で評価される制度となっており、この度、当社はどちらのカテゴリーも認証されております。



（認証ロゴマーク）

北海道e-水プロジェクトは、第15
年目を迎えました。

今年は、次世代コースが新設されたほ
か、北海道を応援するキャラクター「雪
ミク」の「北海道e-水プロジェクト」公
式アンバサダーへの就任、寄付対象商
品に新たに「い・ろ・は・す天然水
950ml」が追加されるなど、話題盛り
だくさんの年になりました。

そのようななか、助成を受けた団体が
道内各地で今年も元気に活動を展開
しています。

北海道e-水フォーラムはそれら活動団
体を取り組んだ成果を一般の皆さま
にお知らせする場として実施します。

また、基調講演には、昨年末に著書『水
辺の小さな自然再生—人と自然の関
わりを取り戻す』を出版された中川大
介さんにご講演いただきます。e-水の
活動団体の話題も登場します。
ぜひ会場まで足をお運びください。



第15回 北海道e-水フォーラム

2024年11月22日(金) 18:00~20:30 [開場17:30]

会場 札幌国際ビル8階 国際ホール
札幌市中央区北4条西4丁目1番地



2024年活動団体発表 e-水コース5団体 (カッコ内は主な活動地域)

- ① 大沼エデュケーションパークプロジェクト(七飯町)
- ② 大沼ラムサール協議会(七飯町)
- ③ 釧路自然保護協会(釧路市)
- ④ クッチャロ湖等保全対策協議会(浜頓別町)
- ⑤ CISEネットワーク(道央地域)

※しずく・次世代コース13団体(裏面のMAPに団体名を記載しています)には時間の都合上、事前に発表いただき録画した映像を、後日、北海道e-水プロジェクトのホームページで公開いたします。

基調講演

※詳細は裏面をご覧ください。

『小さな自然再生がひらく未来』

講師：中川 大介 氏 (ながわ だいすけ)
ライター・編集工房かぜまち会



参加費 無料(定員150名)

要事前申込み・先着順

※お申込み方法は裏面をご覧ください。

参加者プレゼント

ご参加の皆さまに、北海道の天然水「い・ろ・は・す 天然水」540mlペットボトルを1本ずつプレゼントします。

※「い・ろ・は・す 天然水」540ml・950mlペットボトルの売上の一部は、「北海道e-水プロジェクト」の活動資金として活用されています。



北海道e-水プロジェクト

主催：北海道、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、公益財団法人北海道環境財団
お問合せ：北海道e-水プロジェクト事務局(公益財団法人北海道環境財団)
TEL:011-218-7811 E-mail:emizu@heco-spc.or.jp

※北海道e-水プロジェクトは、北海道、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、公益財団法人北海道環境財団の
協働事業として、北海道の水環境保全活動に取り組んでいます。

裏面もご覧ください